

クウェート留学を終えて

稲 綾香

わたしがクウェート政府奨学金に応募しようと思ったきっかけは、中東地域の日本語教育に関心があったことと、一度アラブ圏に住んでアラビア語を勉強したいと思ったからです。9月のはじめにクウェート国際空港に到着したときの緊張感と喜びは今でも鮮明に覚えています。ついに憧れの地で生活ができると思うと嬉しくてたまりませんでした。

学校が始まると、アラビア語初心者だったわたしは授業について行くのに必死でした。周りの留学生はイスラム教徒なども多く、アラビア語既習者であるが初級クラスを履修している人もいて、初級にしてはレベルが高いと思いました。そのような環境で周りの友だちと切磋琢磨しながら勉強できたのは非常に良かったと思います。学校の先生も寮のアブラもとてもフレンドリーで、色々な面で助けていただきました。

私生活では、様々な国から来た人たちと友だちになることができ、共に寮生活を送る中でクウェートだけでなく彼らの文化も学ぶことができました。この留学を通じてスペインから同じくクウェート政府奨学生として留学していた友人と特に仲良くなり、彼女から色々なことを学ぶことができました。留学を通じてかけがえのない親友と出会えたことに感謝の気持ちでいっぱいです。また、クウェート人の友人には、数え切れないほど色々な場面で助けてもらい、たくさんの思い出を一緒に作ることができました。日本大使館関係のイベントや日本語学習者のネットワークなどを通じて彼らと知り合い、仲良くなれたことは非常に幸運なことだったと思います。

クウェート留学中の特に貴重な経験は、日本大使館の文化イベントや、図書展、日本人会の行事、クウェート大学日本語クラスの終了式や日本語スピーチコンテストなど毎月様々なイベントに日本人留学生として参加させて頂けたことです。クウェート大学で行われている日本語クラスでは、多くのクウェート人やその他のアラブ人が日本人の先生の下、日本語を勉強しています。彼らの真剣且つ楽しそうに日本語を学んでいる姿は、アラビア語を学習しているわたしに良い刺激を与えてくれました。遠くクウェートでこんなにも日本が好きで日本語を勉強している人がいるなんて、とわたしは留学中感激しっぱなしでした。

振り返ると良いことのほうが圧倒的に多いクウェート留学生活でしたが、時には嫌な経験もしました。例えば、街中で若者らによる侮辱やからかいを受けたときは非常に腹立たしかったです。また、事務手続きの遅さにはイライラすることもありました。特に郵便局

には非常に頭を悩まされました。しかし、段々とうこういうことに憤慨する自分がばからしくなり、多少イライラしつつもこういうものなのだとか開き直って考えるようになりました。

この留学を通じ、生のクウェートを自分の目で見る事ができてわたしは本当に幸運だと思います。そしてアラビア語を継続して学習し続け、いつかは友人とクウェート方言で話ができる日が来るといいなと思います。いつもわたしを支えてくれる家族、困ったときに助けの手を差し伸べてくれる友人、お世話になった大使館職員の皆さま、日本人会の皆さま、先生や寮のアブラなど数え切れない方々に支えられて無事クウェート留学を終えることが出来ます。感謝の言葉に尽きます。お世話になった皆さま、クウェート政府にいつか恩返しが出来るように、今後も精進いたします。本当にありがとうございました。

